

1-①

学びのサイクルの構築

【課題】

○家庭学習に主体的かつ意欲的に取り組ませたい。

【内容】

○授業に効果的につなげるための予習課題に取り組ませる。

【実施方法】

<小学校>

○算数の授業で出した予習課題をノートに貼り、教科書を読んで問題に取り組ませる。(その際、立式する前に図を描いたり、解き方についての説明を書いたりするよう指導する。)

○めあてと予習課題、まとめ、振り返りを入れて、算数ノートを見開き2ページで構成し、学習の流れが分かりやすいノートづくりをする。予習課題を生かせる学習展開を考え、授業改善に取り組む。

○予習したノートを提示するなど、ICTの活用に努める。

<中学校>

○授業の終わりに、次時の学習範囲について生徒に提示し、次時までに教科書を読ませるようにする。

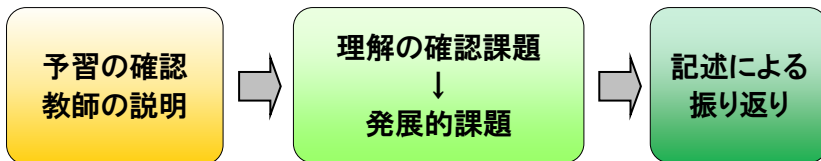
○各教科係に予習内容と範囲を連絡ボードに記入させ、終学活時に連絡させる。

○家庭学習として教科書を読んで、内容がよく分からないところや疑問に思うところに付箋を貼らせる。

○授業開始2分前学習を行い、付箋を貼ったところを読み返すなどする(ちょこっと勉強)。学習委員は、その取組をチェックし、状況を数値化して掲示するなどの取組を継続的に行う。

○導入では、予習課題をもとに基本的な知識を確認した上で、理解の確認課題や発展的課題等、生徒が考える活動を中心とした学習を行う。

学習展開例



【成果・効果】

<小学校>

○次時のめあてや見通しなどを把握でき、次時の学習内容への期待感が高まると同時に、予習に向かおうとする意識が高まり、継続して取り組めるようになった。

○授業では、児童が思考する場面に時間を多くとることができるようになり、適用題や発展問題に取り組む時間を増やすことができた。

<中学校>

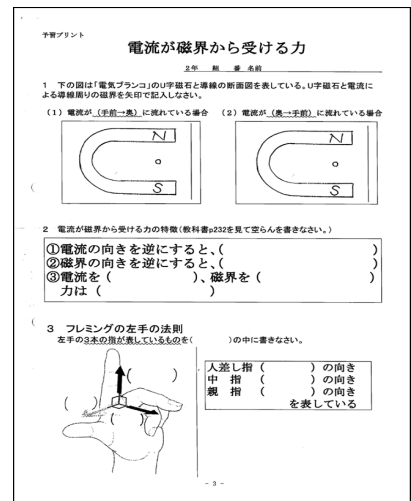
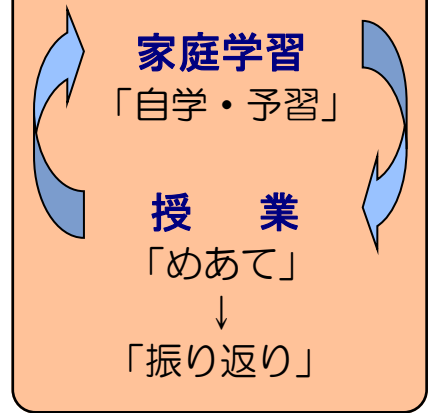
○予習への意識が高まり、多くの生徒が事前に教科書を読むなどの予習ができるようになった。

○授業開始の2分前には、全員が予習をすることで、授業への意欲が高まり、見通しをもって取り組むことができた。

【ポイント】

○校内研修や中学校区での研修で、予習課題が活用できる授業づくりを行う。

【学びのサイクル】



理科の予習課題

